

インドネシア活動報告⑱

株式会社マジオネット

JICA 青年海外協力隊 2016 年度 2 次隊

山口 麗子

【今月(8/17~9/16)の活動】

- ・指導案作成 ・「環境」授業(見学 2 回、実施 4 回) ・ジャカルタお掃除クラブ活動(3 回)
- ・JICA 職員 OJT&中央大学学生視察 ・日本語教室(4 回) ・ロンボク地震チャリティバザー

◎「環境」授業

今月は、OJTとしてJICA職員の訪問と中央大学の学生視察があり、4回の授業中2回は授業参観される形での授業となった。授業を始めて2ヶ月目に入ったこともあり、最近生徒が落ち着かず、騒がしくなることが増えてきた。授業の内容よりも生徒のコントロール方法に課題を感じ、経験の長い先生方にアドバイスを頂いたりして、解決策を練りながら授業を行っている。

◎ジャカルタお掃除クラブ活動

今月のジャカルタお掃除クラブの活動は、青山学院大学の学生ボランティアによる環境教育授業・学校の壁塗装サポート、インドネシア大学日本祭り、World Cleanup Dayでの清掃活動とイベントでの活動が多かった。特にWorld Cleanup Day(9/15)での活動は企業や学生、一般市民も参加型の大きなイベントであった。お掃除クラブのメンバーが中心となって企業も巻き込んだイベントとなっており、環境活動活発化への今後の可能性を感じた。



World Cleanup Day 清掃箇所は先日アジア大会が行われたゲロラ・ブン・カルノ・スタジアム。側溝や植木周りにごみが多く散乱していた。

◎日本語教室

ヒカリ小学校にて毎週火曜木曜の週 2 日、日本語教室を開催するようになった。対象は 4, 5 年生の希望者である。初日は 40 名近くの生徒が参加してくれ、基本的な挨拶を教えた。その後の 2 回は数字を教えたり、日本の歌を教えたりしたが、人数が多いことや放課後で生徒たちの気が緩んでいることもあり、なかなか集中して



初回授業時の様子

もらえない為、先週からクラスを2クラスに分け、週1回の日本語教室へ変更した。残り1か月なので、何よりも楽しく、日本を好きになってもらえるような授業ができればと考えている。

◎JICA 職員 OJT&中央大学学生視察

JICA の OJT の一環で JICA 新入職員が3日間、自身の活動に同行した。活動を見てもらうだけでなく、指導案作成のサポートを行ってもらったり、活動に対しての意見や授業の講評をもらったりと、双方にとって学びとなる時間をつくることができた。また、中央大学の学生は、ゼミの研究でインドネシアの環境教育について調べているとのことで、授業視察とインタビューを受けた。基本的にはロンボクでの活動について話すことになったが、非常に熱心な学生で私自身にとって良い刺激を受けることができた。

【ロンボク地震チャリティバザー開催】

9/8、9/9 にジャカルタで開催された「ジャカルタ日本祭り(Jakarta Japan Matsuri)」にて、知り合いの日本人らと共に、ロンボク地震のチャリティーバザーを開催した。運営委員の賛同を得て、ブースを1区画無償で貸して頂いたり、ジャカルタに住む日本人の方々からも多くの商品提供を頂けたりと沢山の協力があつたお陰で実施することができた。物価の安いインドネシアであるが、売上は全てロンボクへの寄付とすること、また、商品は状態が比較的良く、日本製の商品が多いこと、値段交渉をして下げていくこと等を考慮の上、インドネシアの中古品としては高値の値段設定をしていたが、想定以上に初期設定の価格で購入してくれる方が多かつた。また、商品を買わない人もロンボク支援ができるようにと別途募金箱も設置していたが、こちらには多くの日本人やイベントオーガナイザーが募金をして下さった。結果として、バザーの売上と募金併せて2日間で合計 Rp18.900.000(約14万円)という額を集めることができた。今回の募金は、ロンボクでの活動時にもお世話になっていたNPO法人ゆいツールが行う支援活動に寄付させて頂いた。雨季が来る前に地震で倒壊してしまった学校に大型テントを設置したいとの現地からの要請を受け、ゆいツールが行っている活動である。幸いなことに、現在すでに要請があつた全ての学校分のテントを購入できるだけの費用が集まったそうで、超過分は別の地域や現地で必要とされているものの支援にも充てていくとのことである。



日本語の文庫本でも勉強の為と言って買ってくれる若者が多くいた。



ボランティアとして2日間手伝ってくれたスタッフと



購入、募金を頂いた方にはロンボクへのメッセージも書いて頂いた。